

ベンジャミンバニーの話



ビアトリクス・ポター さく・え

たちばな こうじ やく



ソーリーのこどもたちへ
老バニー氏より



ある朝ちびのうさぎが、土手の上に座ってた。

彼は耳をそばだてた。パッカパッカ、パッカパッカ、ひづめの音が聞こえてきたんだ。

一頭の小馬に引かれた二輪馬車が、道沿いにやってくる場所だったのさ。

手綱を握ってたのは、マグレガーの旦那だった。

隣に乗ってるのはおかみさんで、とっときによそゆきのボンネットをかぶってた。



馬車が行っちゃまうと、ちびっこうさぎのベンジャミンバニーは、すぐさま道にすべり下りてとんでった——三段跳びでね——マグレガーの庭の裏の森に住んでる親戚のところへ。



森はそこらじゅう兎穴だらけだったが、中でいっとうこぎれいで、砂がふかふかした巣穴が、ベンジャミンのおばといとこたち——フロプシー、モプシー、コットンテール、ピーターの住まいだった。

おばさんうさぎは未亡人で、兎の毛で手ぶくろや袖覆いを編んで、一家の暮らしを立てていたんだ。（私もいっぺんバザーで買ったことがある）

ハーブや、ローズマリーティーや、うさぎたばこ（人間たちがラベンダーと呼ぶところの物）を売ったりもしていた。



ちびのベンジャミンは、おばさんにはあまり会いたくなかった。
それで、樅の木の裏側を回って行くと、いとこのピーターにけつまずきそうにな
った。



ピーターはうずくまってたんだ。冴えない顔して、赤い木綿のハンカチにくるまって。

「ピーター」

ベンジャミンはささやきかけた。

「お前、服、誰にとられたんだ？」



「マグレガーさんの畑のかかしだよ」

って、ピーターは答えた。

そうして、自分がどんなふう到庭を追いまくられ、靴と上着を落っことしてきたか話してきかせた。

ベンジャミンは、いとこの隣に腰をおろした。

そして、マグレガーの旦那が馬車ででかけたこと、おかみさんも一緒だったことを話し、しかもよそゆきのボンネットをかぶっていたから一日中戻って来ないに違いないとうけあった。



雨に降られればいいんだ、なんて、ピーターは言ったよ。
その時、兎穴の中から、おばさんうさぎがこう呼ぶ声が聞こえた――
「コットンテール！ コットンテール！ カミツレをもう少し持って来て！」
散歩に出かけたほうが気分がよくなりそう、とピーターは言った。



二匹は手をつないで歩いていき、森はずれにある塀のひらたいてっぺんに上った。
そこからは、マグレガーの旦那の畑が見下ろせたんだ。
ピーターの上着と靴が、旦那の古いタモシャンター（ベレー帽）と一緒に、かかし
に着せられているのがはっきり見て取れた。



ベンジャミンが言うには、

「木戸の下を無理やりくぐったりしたら、服がダメになるだろ。中に入るには、梨の木を伝って下りてくのが一番いいんだ」

ピーターは頭から落ちたけど、下にあった苗床が、熊手でかいたばかりでとてもやわらかかったから、大事にはいतरなかつた。



そこには、レタスの種が蒔かれてた。

二匹は苗床じゅうに、おかしい小さい足跡をやまほど残していった。

とりわけベンジャミンは、木靴をはいてたからね。



まずはじめにピーターの服を取り返さなきゃな、と、ベンジャミン。

そうすりゃハンカチが使えるようになる、って言うんだ。

二匹はかかしをまるはだかにした。

夜の間には雨が降ったから、靴の中には水が入っていたし、上着はいくぶん縮んでた。

ベンジャミンはタモシャンターをかぶろうとしてみたけど、そいつはさすがに大きすぎた。



さてそれからベンジャミンは、
ハンカチに玉ねぎ包もうぜ、って言い出した。
おばさんへ手みやげにしようって。
ピーターは気乗りしなかった。
周りの音が耳について落ち着かなかったんだ。



ベンジャミンは正反対にすっかりくつつろいで、レタスの葉っぱをほおぼっていた。

いつも、日曜日の正餐のためのレタスをおやじと取りに来てるから、この庭には慣れてるんだそうだ。

（小ベンジャミンのおやじさんの名前は、大ベンジャミンバニー氏という）
ここのレタスは、まったく絶品なんだ。



ピーターは何ものどを通らず、家に帰りたいよとこぼすはしから玉ねぎを半分落っことした。



ベンジャミンは、野菜をどっさり抱えてちゃ梨の木を登って戻るのは無理だと言って、恐れ気もなく庭の反対側に向かって先に立って歩き出した。二匹は、日当たりのいい赤い煉瓦塀の下の、厚板を敷いた小道をたどっていった。巣穴の前でサクランボの種を割っていたネズミたちが、ピーターラビットと小ベンジャミンバニーに目くばせをした。



しばらく行くうちに、ピーターはまたハンカチを取り落したよ。



植木鉢や、温室の枠や、たらいが並んでるところまで来ると、ピーターはいっそう物音に過敏になり、目は棒付きキャンディーみたいにでっかくなった！
それでいとこの数歩前を進んでいたんだが、突然立ち止まった。



これが、ちびうさぎたちが角を曲がって見たものさ！
ベンジャミンはそいつを目にするや、いつときも間をおかず身を隠した。
ピーターと玉ねぎも一緒に、大きなかごの下へ...



その猫は、起き上がって伸びをすると、鼻をふんふんさせながら、かごに近づいて来た。

もしかしたら、玉ねぎの匂いがお気に召したのかもね！

いずれにせよ、猫は、かごの上へのぼって座りこんじまった。



五時間すわり続けたんだ。

※

かごの下のピーターとベンジャミンの絵は、描いてあげられない。何しろ真っ暗だったし、玉ねぎの匂いがひどくって、ピーターとベンジャミンは涙が止まらなかった。

お天道さまが森の向こうにかくれ、夕暮れ時になっても、猫は依然としてかごの上に居すわったままさ。



そうこうしてるうち、ぱったんぱったん足音がして、しっくいのかけらが、塀のうえから落ちてきた。

猫が見上げると、露台の壁のてっぺんを、大ベンジャミンバニー氏が気取って歩いてたんだよ。

うさぎたばこをつめたパイプをふかし、手に小枝を持って。

息子をさがしてたんだ。



バニー氏は、猫というものが、何によらず気に食わなかった。
それで壁の上から猫めがけて、すごい勢いで飛びかかったんだ。かごから叩き落として、温室に蹴り込み、毛をひとつかみむしり取った。
猫はそりゃもう度肝をぬかれて、ひっかき返すこともできなかったよ。



バニー氏は、猫を温室に追い込んで、戸に錠をかけた。
それから、かごのところに戻ると、息子のベンジャミンの耳をつかんで引きずりだし、小枝のむちでおしおきをした。
ついで、おいのピーターをひっぱりだした。



そして、玉ねぎを包んだハンカチを取り出すと、悠々と庭を出て行ったのさ。



それから30分ほどして帰ってきたマグレガーの旦那は、いろいろとおかしなことに気づいて面食らわされた。

幾人かが庭じゅうを、木靴で歩きまわったようだけど——その足跡ときたら、ばかばかしいほど小さいんだ！

それと、猫がどうやって温室の“内側”に閉じこもることができたのかもわからなかった。

戸の錠は“外側”からかってあったのに。



家に帰ったピーターを、かあさんは叱らなかった。靴と上着が見つかったとわかって、うれしかったからね。

コットンテールとピーターは、ハンカチを折りたたんだ。

そうしてかあさんうさぎは、玉ねぎに糸を通して台所の天井につりさげたんだ。ハーブやうさぎたばこの束と一緒に。

おしまい

ポター作品リスト

Beatrix Potter作品の日本における著作権は消滅し、パブリックドメインに帰しています。
翻訳の底本はFREDERICK WARNE出版の The original and authorized edition です。

1. The Tale of Peter Rabbit (1902) 【[ピーターラビットの話](#) : 2012.3】
2. The Tale of Squirrel Nutkin (1903) 【[リスのナトキンの話](#) : 2012.3】
3. The Tailor of Gloucester (1903) 【[グロスターの仕立屋](#) : 2012.4】
4. The Tale of Benjamin Bunny (1904) 【[ベンジャミンバニーの話](#) : 2012.3】
5. The Tale of Two Bad Mice (1904) 【[二匹のいたずらねずみの話](#) : 2012.12】
6. The Tale of Mrs. Tiggly-Winkle (1905) 【[ティギーウィンクルさんの話](#) : 2012.5】
7. The Tale of the Pie and the Patty-Pan (1905) 【パイと焼き型の話 : 執筆中】
8. The Tale of Mr. Jeremy Fisher (1906)
9. The Story of A Fierce Bad Rabbit (1906) 【[あらくれやくざうさぎ物語](#) : 2012.12】
10. The Story of Miss Moppet (1906) 【[モペット嬢物語](#) : 2012.12】
11. The Tale of Tom Kitten (1907) 【子ねこのトムの話 : 執筆中】
12. The Tale of Jemima Puddle-Duck (1908)
13. The Tale of Samuel Whiskers or, The Roly-Poly Pudding (1908)
【[サミュエル・ウィスカーズの話 もしくは、うずまきプディング](#) : 2013.4】
14. The Tale of the Flopsy Bunnies (1909) 【[フロプシーのちびっこたちの話](#) : 2012.4】
15. The Tale of Ginger and Pickles (1909) 【[ジンジャーとピクルズの話](#) : 2013.1】
16. The Tale of Mrs. Tittlemouse (1910)
17. The Tale of Timmy Tiptoes (1911)
18. The Tale of Mr. Tod (1912) 【[ミスタートッドの話](#) : 2012.11】
19. The Tale of Pigling Bland (1913) 【[ピグリンブランドの話](#) : 2013.12】 **NEW**
20. Appley Daply's Nursery Rhymes (1917) 【[アプリー・ダプリーの童謡](#) : 2012.4】
21. The Tale of Johnny Town-Mouse (1918)
22. Cecily Parsley's Nursery Rhymes (1922) 【[セシリ・パセリの童謡](#) : 2012.4】
23. The Tale of Little Pig Robinson (1930) 【[こぶたのロビンソンの話](#) : 執筆中】

原文参照 [Project Gutenberg : Books by Potter, Beatrix](#)

ベンジャミンバニーの話

<http://p.booklog.jp/book/47607>

作者：ピアトリクス・ポター

訳者：橘 柑子

作者プロフィール：<http://ja.wikipedia.org/wiki/ピアトリクス・ポター>

訳者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tokijikudou/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/47607>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/47607>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.